

森を知ろう 森へ行こう!



まわりの素材木に変えよう

みんなの周りにある建物や生活用品はどんな素材でできているか知っていますか。一戸建てのような低い階の住宅は8割が木で造られ、そのうち半分は外国の森の木が使われています。4階建て以上のマンション、お店やビル、倉庫と

街に炭素固定 温暖化防ぐ

すよね。この連載で学んだように、木は育つ間に二酸化炭素(CO₂)を吸ってためこみます。「炭素の固定」といい、切って素材になって木は炭素を固定し続けます。建物や生活用品などの素材をコンクリートや鉄、

やすくなってきました。床や壁に木を使うことで、室内の湿度を調節したり、リラクセスできたり、集中力を高めたりするという木の良さも確認されています。建物への「木づかい」がふたたび当たり前になり、地球にも「気づかい」できた

エンジンできそうか、考えてみましょう。(長野麻子、株式会社モリアゲ代表)

95%が国産材

千葉の学び舎

木の香りやぬくもりを感じながら子どもたちが学ぶ学校が千葉県流山市にあります。市立おおぐろの森中学校は木をふんだんに使った教室やおしゃれなラウンジのある図書室、芸術

いった住宅でない建物(非住宅)はコンクリートや鉄骨でできていて、ほぼ木造ではありません。家具にも外国の木が使われ、生活用品もプラスチックにかわり、日本の木はあまり使われなくなりまし

た。日本の森には、昔の人が将来私たちに使ってほしいと願い、苦勞して植えてくれた木がこんなにあるのに、もったいないです。最近では、燃えにくい加工をした建材や地震に強い工法が開発され、木で

ビル、マンションが建てられ、何がウッド・チ

身のまわりのものをウッド・チェンジしていくことが日本の森を元気にします。ぜひ、何がウッド・チ

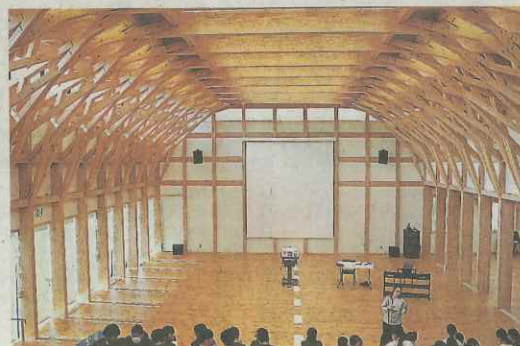


ウッド・チェンジした街のイメージ



木をたくさん使って街の中に建てられた8階建てのタマディック名古屋ビル=愛知県名古屋市(撮影は写真家の平井広行さん、同社提供)

やす国の取り組みを利用して、2022年4月に開校しました。使っているのは千葉県のスギをはじめ、流山市上流の利根川水系や長野県、石川県の姉妹都市のカラマツ、ヒノキなどで95%が国産材です。使い方も工夫しています。板を縦や横に組み合わせ、強度を高めた木材を床や天井に使い、1本の木に見える教室のはりは、板をいくつも重ねて造られました。図書室などの柱は、うすくけずった木をはり合わせたLVL(エルブイエール)とよばれる建材です。はりの部分は通常よりも多くの木材を使って太くし、万が一の火事の時にくずれ落ちにくい造りになっています。



に上ります。コンセプトは「高台の緑に溶け込む 森の中の木の学び舎」。木造の校舎を増